

勝ち越して胸を張っての里帰り

九州場所を終えた福智町出身の藤本悠介力士(阿部松部屋・22歳)が、11月25日に町内各地の保育園や福祉施設を訪問しました。「地元の声援に無心で相撲がとれた」という藤本力士は、得意の押し相撲が冴え5勝2敗の勝ち越し。「また苦しい稽古や厳しい勝負を乗り越え、心も体も大きくなって帰ってきます」と地元ファンにさらなる飛躍を誓いました。



↑地元ファンの温かい励ましに、さわやかな笑顔と力強い握手で応える藤本力士。

↓昨年より大きい物を購入するのが商売繁盛等につながるとされているくま手。



福を運び寄せゑびす願

「ますます冷え込む景気ですが、ゑびす様のようにニコリ笑顔で新年を迎えたい」そんな願いを持った人々が集った、金田町商工会主体による金田恵比寿奉賛会主催の「ゑびす祭り」。12月2日から2日間、金田菅原神社境内で開かれ、家内安全や商売繁盛を願うおよそ1500人が福引きで運試しを楽しみ、縁起物のくま手を買って求めていました。

音楽を身近に感じたお昼のひととき

10月26日に福智町文化連盟主催の「ふれあいクラシックコンサート」が赤池支所のホールで開かれました。日本フィルに在籍する4人が全7曲を演奏。会場を埋めつくした80人の参加者は、クラシックの「弦楽四重奏曲 76番」や井上陽水の名曲「少年時代」、子どもたちに人気の「崖の上のポニョ」など、プロが奏でる多彩なハーモニーを堪能していました。



↑明るく開放的な赤池支所ホールでの演奏、一流の音色を間近に聴き入りました。

↓平常心で射場に並び、背筋を伸ばして真剣な表情で弓を引く参加者たち。



北風切り裂く渾身の一矢

12月14日に福智町弓道連盟主催の弓道大会が福智町弓道場で開催されました。初心者から全日本・国体クラスの有段者まで、町内外から参加した324人の弓道愛好家が日ごろの修練の成果を競い合いました。大会当日は北風が吹き荒れるコンディションでしたが、参加者は集中力を切らさずにしっかりと的を見据え、力強い矢を放っていました。

↓気の遠くなる距離と難関を越えて母なる川へと帰ってきたサケ、遡上を喜ぶ大久保琢磨会長。



彦山川に8年ぶりサケ遡上

12月9日に市場小横の彦山川で遡上したサケが発見されました。見つかったサケは体長約80cmのオス。遡上が確認されたのは8年ぶりのことです。河川敷の環境美化活動を続けているひこさんがわ夢の会(大久保琢磨会長)と赤池中1年生が、およそ6年前からサケの稚魚3千匹を放流。その成果となる今回の遡上に、関係者たちは目を細めました。大久保会長(赤池)は「ここまでの遡上は奇跡的、稚魚放流の現場で確認できたのも感慨深い。今後の活動に夢につながった」と朗報を喜びました。

身近な自然の魅力や尊さに気づく

12月13日に生涯学習講座が中央公民館で行われました。町文化財専門委員などを務める熊谷信孝さんが福智町の自然や貴重な植物について説明し「これらの植物は町の貴重な宝ですが、その多くが環境の変化や人為採取によって絶滅の危機をむかえています。住民ボランティアなどで守り、次の世代に残すことが大切です」と参加者20人に訴えかけました。



↑山を歩いて自ら撮影した写真で、福智の自然をわかりやすく説明する熊谷さん。

↓10月から12月まで実ったバナナ、長く垂れ下がった先はバナナの雄花です。



冬の福智に南国景色

自然の気まぐれでしょうか。方城温泉付近の畑(浄万寺)に植えられているバナナの木に仲良く身を寄せ合う様な実がなり、南国の雰囲気を漂わせていました。この木は高さ約8mで、10年前に苗木から植えられたそうです。今年の夏は日照時間が長く高温多湿の気候だったので、バナナが南国と間違えたのでしょうか。来年も実がつかうのが楽しみです。